

2023年10月31日

語りつぐ青函連絡船の会

JR北海道ホテルズ株式会社

JRイン函館「青函連絡船」黒い枕(普通座席用枕)の復刻版制作と貸出開始のお知らせ

JR北海道ホテルズ株式会社が経営・運営するJRイン函館は、NPO法人語りつぐ青函連絡船の会の協力のもと、かつて青函連絡船の普通座席で使用していた枕の復刻版を制作し、ホテルフロントにてご宿泊のお客様へ貸し出しを、2023年11月1日(水)より開始いたします。

今回復刻した枕は、1988年3月13日の青函トンネル開業まで活躍した青函連絡船で実際に使用していた本物の枕を元に、同じ素材や寸法で忠実に再現したものです。

場所取りや枕確保のために棧橋を走った往時を偲びながら『懐かしの青函連絡船の黒い枕』をご宿泊の際にぜひご体験ください。

■『懐かしの青函連絡船の黒い枕』概要

- ・枕サイズ・素材：縦15cm×横27cm×高さ10cm、黒色合皮レザー
- ・貸出開始日：2023年11月1日(水)
- ・貸出方法：JRイン函館フロントにお申し出ください。【1日限定15名様】※先着順・無料



函館市青函連絡船記念館摩周丸



今回、復刻した「懐かしの青函連絡船の黒い枕」

■復刻にいたった経緯

JRイン函館ではJRインブランド共通のサービスとして、選べる枕コーナーを設けて素材が異なる枕を自由に選ぶことができます。

語りつぐ青函連絡船の会のみなさまから黒い枕の話を知ったときに、この黒い枕を選べる枕のラインナップに加えたいと思いつきました。しかし、黒い枕を見たことも触ったこともないため、語りつぐ青函連絡船の会のみなさまの協力のもと、摩周丸に保存されていた黒い枕をお借りし、復刻に向けサイズや素材のアドバイスをいただきました。制作は地元函館のテント・シート製造会社に依頼し、職人さんにひとつひとつ丁寧に裁縫していただきました。

35年振りに復刻した黒い枕を使って、就職で故郷を旅立つときや修学旅行など、様々な思いを乗せて津軽海峡を行き来した青函連絡船の思い出に浸っていただければ、より一層往時を懐かしんでいただけることと思います。

青函連絡船の輝かしい功績をこれからも次世代に受け継ぐため、JRイン函館ではご宿泊いただくお客様へのあらたなサービスを開始し、その使命を果たしていきたいと考えております。

■NPO 法人語りつぐ青函連絡船の会について

函館港に係留・保存されている摩周丸を産業遺産として再評価し、青函連絡船の歴史と文化を後世に伝える活動を行う。1999年9月結成、2002年3月NPO法人化(特定非営利活動法人)。創立理事長は元国鉄青函局長で津軽丸型連絡船を設計した石黒隆氏(2021年3月死去)、現理事長は音楽評論家・作詞家の湯川れい子氏。2003年7月よりJR函館駅2階で「船と鉄道の図書館いるか文庫」を運営、2008年4月より「函館市青函連絡船記念館摩周丸」を運営(指定管理者)。摩周丸が2023年7月「ふね遺産」に認定。

住 所: 函館市若松町 34-8-1002
お問い合わせ先: 0138-27-2500(摩周丸)

■JRイン函館について(2020年5月18日開業 支配人 宮川 岳三)

JR北海道ホテルズ株式会社が経営・運営する宿泊特化型ホテルである「JRイン函館」は、「鉄道と青函連絡船の記憶を刻むホテル」です。1階ロビーには元国鉄カメラマンの白井朝子氏(現語りつぐ青函連絡船の会副理事長)が撮影した青函連絡船の写真パネルを展示しているほか、12階には青函連絡船の1/100スケールの模型や各種備品をご覧いただけます。また、函館駅から青函連絡船に繋がる引込線跡地に建っており、地理的にも青函連絡船に馴染み深い唯一無二のホテルです。JR函館駅隣接という抜群のロケーションと「すべては心地よい目覚めのために」というJRインのブランドコンセプトを体現する空間により、お客様に快適な旅のひとつを提供いたします。



住 所: 函館市若松町 12 番 14 号
お問い合わせ先: TEL 0138-22-2333

■報道関係の方からのお問い合わせ先

JR北海道ホテルズ株式会社 マーケティング部 広報 川原
TEL: 011-251-6325 (直通 平日9時~17時半)